

114
A3099



大隈参議ノ紙幣及ニ外國貿易論ヲ駁ス

商法會議所カ常ニ傾心著意重キヲ持レテ商議ニ従
事セガルヲ以テ究竟其ノ事業振フテ能ハス外國商
民亦タ不利ヲ受クルヲ見ントス思フテ此ニ至レハ
勝テ歎スベケンヤ然リ而ノ其事業ノ振ハサルヨリ
生スル所ノ惡結果ハ商法會議所カ現行条約等約定
ノ明文ニ依リ内外人ニ附与レタル通商ノ權利ヲ保
護セサルヲ得サルノ場合ニ於テ寔モ甚クシトス今
其一的証ヲ掲ケンニ即チ去ル三日ノ會議ノ如キハ
會長ノ宛名ヲ以テ送越セシ書簡中ニ登載セル明確
ノ根拠ナキ事宜教条ヲ臚列セシ議案ヲ以テマシニ
各員ノ之ヲ討論駁議スル者亦皆ナ蕩々トシテ明

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



確ノ理義アラズ其領社ニ
并スルモノアリト虽且局員藤子認フ本會ハ大隈閣
下ノ意見ヲ討駁スヘキノ地ニアラスト蓋シ同會員カ
大隈閣下ノ意見ヲ臚列セシ一篇ヲ受理セシハ之ヲ
審議スル為メ本會ヲ開設スルノ前二月ニ在リ日月
ノ長キ此ノ如シ預メ廣ク眞ヲ尋子実ヲ徴シテ以テ
審議ノ用ニ供スルヲ得ベカリシ
当路権官ノ發議ニシテ其間苟モ誤謬実ヲ失フノ処
アレハ商民休戚ノ係ル所固ヨリ必ク之ヲ不尙ニ附
スベカラズ是ヲ以テ余ハ日本政府刊布ノ公報ニ列
スル証憑ニ據リ以テ大隈閣ノ言ノ果シテ信徴アル
マ否ヤヲ断セントス
大隈閣カケン子ツヂー氏ニ陳スル所、要端四アリ

第一條 日本政府ハ過ルニケ年ノ間ニ於テ壹千貳
百萬圓ノ紙幣ヲ消却シ之ニ代フルニ同額
ノ正貨ヲ以テ市場ノ流通ニ供セリ
第二條 三年前ニ在テハ正貨三千萬圓ノ準備額ヲ
有セシト虽且現今ニ於テハ壹千貳百萬マ
テニ減縮セリ此他尙ホ紙幣三千萬圓諸債
付金七百萬圓ヲ有ス
第三條 正貨準備額ヲ五千萬圓ニ増シ紙幣流通額
ヲシテ(内國ノ流通上ニ必要ナル所)壹億
萬圓ヲ支持セント欲ス
第四條 紙幣價格ノ下落ハ全ク貿易出入相衡セサ
ルニ原因セリ蓋シ近年輸出價格ノ不足ハ
常ニ壹千萬圓ニ居リ馮ノ六ヶ月ヨリハキ

ハ外國人カ輸入品ノ代價トシ領收セシ高
ハ輸出品ノ為ニ仕拂ヒレ高ヨリ超過セ
レテ平均毎日三万弗ニ及ヘリ

以上四條ノ説ニ就キ將サニ次ヲ逐テ論及セントス
千八百七十九年及ヒ千八百八十年ノ兩年間ニ於テ
政府ハ紙幣買收ノ為ニ正貨千貳百萬圓ヲ支出セ
リト云フ其言果シテ実ナラハ該兩年間ニ於ケル金
楮ノ交換差ヲ低ク算算スルモ尚ホ紙幣尙千六百三
拾貳万圓ニ換フトヲ得ズ然レモ第一條ノ意味ヲ
推案スルニ其実ハ唯タ尙千貳百萬圓ノ紙幣ヲ收メ
ン為メ銀貨約リ八百八拾貳万五千圓ヲ支出シテ之
ニ充テシモノニ似タリ又政府カ紙幣減却ニ充用セ
シ斯ノ銀貨ハ決シテ海外へ輸出シ以テ貿易出入ノ

不権衡ヲ償フカ為ニセシニアラズ則チ政府カ其
債主ニ對シ負債ノ一部分ヲ償却シテ皆チ債主ノ有
トナルニ過キス此等別ニ之ヲ論セザルヲ得ズ紙幣
ヲ消却スルト既ニ尙千貳百萬圓ナルニ其結果却テ
世間ニ流播スル紙幣ノ残額ニ百ニ付二十五ノ下
落ヲ生セシメタリ即チ千八百七十九年ノ交換差割
合ハ平均正貨百圓ニ付紙幣百貳拾貳圓ナリシニ千
八百八十年ニ於テハ平均百五拾圓ニ至リ紙幣價格
ノ漸ク低下スル此ノ如キハ抑モ故アリ當カニ之レ
ヲ後ニ論悉スベシ

第二條ニ云ク三年間ニ於テ準備正貨其額ヲ減スル
約リ千八百萬圓ナリト推シテ之ヲ算スルニ千八百
七十七年ノ現額蓋シ三千万圓ニ至リテ千八百八十年

ノ現額千貳百萬四ナリ然レ此ノ事實ノ相々透フ
所アツテ説明ヲ得ルニアラサレハ瞭然タル能ハズ
曾テ千八百七十九年八月三十日当港商法會議所會
負數名大隈閣下ノ延請ニ應シテ大藏省ニ至ル大隈閣下
之ヲ導テ府庫ヲ視セシメ又夕之ニ示スニ帑金ノ計
表ヲ以テセリ千八百七十九年九月六日「シヤパン
メ」ル新聞ニ備カニ會負觀覽スル所ノ始末実況ヲ
載ス其言ニ曰ク「故ニ正金ニシテ現ニ府庫ニ蓄ヘ國
用ノ準備トナスモノハ八月三十日ノ見數三千萬四
ナリト此時ヨリ以降ケン子ツデー氏書翰ニ記スル
月日ニ至ル迄其間月ヲ閱ルト未タ僅ニ十五ナラカ
ルニ政府ノ準備金ハ海關稅及ヒ其他正債ヲ以テ收
入スベキ稅目アルニ拘ハラズ既ニ千八百萬四ノ巨

額ヲ減少セリ是レ千八百七十九年八月ニ於ケル三
千萬四ノ見數全ク烏有子虛ニシテ其實ナキニ非レ
ハ則チ千八百七十九年八月以前準備金ノ毫釐ヲ支
出セズ八月以後ニ至リ遽ニ巨額ヲ濫出セシナリ畢
竟此ノ二ツノ者彼ニ出デシカ此ニ出シカ千八百萬
四ノ正債ハ千八百七十九年十一月三十日以前十五
月ノ間海外へ出ツルノ跡ナキヲ以テ本項ノ疑議ハ
大隈閣下第三第四條ノ說ニ於テ關係極メテ大ナル所
アリ余ハ初メヨリ準備正債三千萬四ノ實ヲ信セズ
商務局審議ノ際一人大隈閣下ヲ保庇シ前キニ政府カ
正債三千萬四ノ準備金ヲ截有セシハ確實ナルヲ
保証セリ若シ比スルニ今日ヲ以テハ余輩愈々其
偽タルヲ覺ユルナリ

大隈氏第三條ノ説ニ國中ノ須用ニ供スル紙幣ノ数ヲ定メテ之ヲ掲ケタリ我ニ証憑ノ據ルベキアリ請フ詳カニ之ヲ論セシキハ百八十年千八百八十一年ノ統計ヲ按スルニ

紙幣總額

一〇、八、六、八、三、二〇、三、四

銀行紙幣總額

三、四、四、九、三、三、八、一、四

通計一切紙幣

一、四、三、一、七、六、五、八、四、四

右通計金額中須ラケ算除スベキ者ニアリ

一 平年紙幣消却ノ預算金額五百〇、四、五、千、四、ノ、内

二、五〇〇、〇〇〇、四

一 府庫ニ蔵レニ播用セザル者

三〇、〇〇〇、〇〇〇、四

合計

三二、五〇〇、〇〇〇、四

差引紙幣全額

一一〇、六、七、六、五、八、四、四

大隈氏ノ主張スル如ク果シテ國中須用ノ為ニ壹億万圓ノ紙幣ヲ要セハ一千萬圓ヲ發行スル毎ニ必ス全額ノ價值百ニ付四十三ノ低落ヲ致スベシ是レ勢ノ必ズ然ル所ニシテ且理ノ顯然タル所アリ三年前府庫ノ蓄フル所正貨三千萬圓紙幣九百萬圓當時通用紙幣ノ情況左ノ如シ

政府發行ノ紙幣

一、二、一、一、五、四、七、三、一、四

銀行紙幣大約

二、三、〇、〇、〇、〇、〇、四

合計

一、四、四、一、五、四、七、三、一、四

此内府庫ニ蓄藏シテ世上ノ通用ニ付セザル者九、百、萬、圓、ナリ

差引總計

一、三、五、一、五、四、七、三、一、四

千八百七十八年六月三十日紙幣ノ價值ハ約シ全額

百ニ付五分半ノ下落ヲ呈セリ
以上ノ統計ニ依テ之ヲ考フルニ今ヨリ三年前ニ当
リ是億三千五百万ノ紙幣ハ正貨是億貳千七百五十
万由ノ代品トナリテ世間ニ流通ス人亦タ信シテ之
ヲ授受セリ現今ニ至テハ是億千五拾万由(而メ其
國中須用ノ為メ猶ホ更ニ本額百分ノ九十ヲ要スト
云フ)ノ紙幣終ニ正貨六千三百五拾万由ノ代品トナ
ルヲ能ハス其由テ起ル所如何大隈信下氏謂フ紙幣ノ下
落ハ全ク外國貿易ニ由ルマクフエルソン氏云フ
其原因外國貿易ニ在ラズ人信フ紙幣ニ置カサルニ
至レルヨリ紙幣自ラ其位ヲ失ハナリト
余カ此ニ列掲スル統計ハ皆テ政府ノ公報中ヨリ摘
録スルモノナルヲ以テ其確實ニシテ誤謬ナキハ余

カ固ヨリ保スル所ナリ則チマクフエルソン氏ノ説
ノ正クシテ大隈閣下ノ言ノ實ニ合ハザル一目知ル
ベシ大隈閣下ハ未ダ紙幣増發ノ事ニ就テケン子ウ
デイ氏ニ陳スル所アテ余輩敢テ問フ尔来紙幣
ヲ發行セシヤ否蓋シ其所謂エル準備金トハ唯タ
通貨ノ權衡ヲ正フセンガ為メ準備トナスニ止マル
之ヲ称シテ歲計剩餘ノ財トナスハ大隈閣下カ自ラ
整頓刊行シタル歲計表中貳千貳百万由ノ不足數ヲ
生セシ片大隈閣下猶ホ四千六百万ノ剩餘アリト執
言スル如ク誤ノ實モ大ナルモノナリ大隈閣下準備
金ト剩餘ノ金トニ於テ其誤謬此ノ如ク而メ正貨ヲ
發シテ紙幣ヲ消却セシ割合ノ甚タ巨額ナルヨリ反
テ自餘流用紙幣ノ價值ニ於テ甚シキ貶損ヲ致セリ

之カ為メニ前三年間日本政府ハ其歳出金額ヲ歳入金
金額ノ内ニ置クテ能ハス而シテ大藏卿ハ既ニ紙幣増
發シ以テ歳入ノ部ニ算入シタレハ今後亦タ將ニ
之ヲ以テ進款ノ一部トナサントス此等ノ跡ヲ以テ
之ヲ思フニ日本紙幣ノ總額ハ銀行紙幣ト共ニ合計
シ億壹千万圓ニ過ギズトノ説ノ弥々其實ニ非ルヲ
知ルベシ

今ヤ日本人民方カニ漸ク正貨モ亦タ一高品ニシテ、
賣買スベキモノタルヲ悟ルニ至レリ夫レ不換紙幣
ト雖モ其發行額カ貿易上ノ媒介ノ為メニ必須トス
ル所ノ高ヲ超過セサル間ハ即チ正貨ト均一ノ價格
ヲ以テ並ニ行ハルベシト雖モ必須ノ數既ニ超過セ
リ其數ノ大ナルカ如キハ推シテ知ルベシ余輩ハ流

^通用紙幣ノ總額壹億萬圓ニ非ラスレテ其必ス二
億萬圓ニ下ラザルヲ信スルナリ

過剩ノ紙幣既ニ之ヲ用エルノ地ナク人民ノ紙幣ヲ
蓄積スル者亦タ之ヲ使用スルノ道ナキヲ憂ヘ其價
格ヲ折減シテ之ヲ人ニ授与シ唯々其身ヲ離ル、ノ
晚カラントヲ恐ル、ニ至ル余カ前ニ述ブル如ク一
且紙幣ニ剩餘アルトテ世人知覺スルニ及シテハ價
格ノ折減愈々甚シク顛墜其極ヲ知ラザラントスマ
クフエルソソク云フ紙幣價格ノ下落ハ全ク其世人
ノ信用ヲ失スルニ因ルト吾人之ヲ實事ニ徴シテ其
言ノ是ナルヲ知ル蓋シ外國貿易ハ紙幣價格ノ昂低
ニ於テ實体ノ關係ナレ今日紙幣ヲ以テ正米ヲ買フ
ニ之ヲ三年前ニ比スレハ其價格殆ント相ニ倍蕪ス

ト雖^レ供給需用ノ緩急ニ随^テ正米一石ヲ以^テ能ク
 同量ノ他穀ニ換^ユベキハ猶^ホ三年前ノ景況ニ於^ケ
 ルカ如^シ但^レ内地ノ人民ニ至^テハ全ク外國貿易ト
 声響相^ニ通^セズ妄^リニ以^テラケ紙幣ノ傾^レ覆^シ日
 ナ^レ今ニ及^ビシテ正貨ヲ藏^ム之^ク備^フヲナスニ非^サレ
 ハ必^ズ家ヲ破^ルノ憂^{アリ}ラント故^ニ正貨ハ獲^ルニ随
 テ必^ズ之^ヲ密藏^シ積^ム守^極メテ謹^メリ其甚^クシキハ
 愚^民銅貨ノ実價僅^ニ通價十分ノ四ニ過^キザルヲ知
 ラス或^ハ之^ヲ知^ルモ斥^ケテ虚説トナ^シ争^テ之^ヲ蓄
 藏^スルニ至^ル國民紙幣ヲ信^ゼサルノ情^弊此^ノ如^シ
 是^レ其發行ノ濫^多ナルニ因^ラザルナキヲ得^ンヤ少
 シク慮^{アル}者皆^テ謂^フ若^シ政府茲^ヲ改^メ轍^ヲ易^ス
 ルニアラズンバ紙幣引換ノ一^ト永^ク行^ハレサルヘ^シ

ト前^キニ政府カタク正貨ヲ支出スルモ人民皆^テ之^ヲ
 藏^メテ出^サズ一^歳ノ間政府方^サニ紙幣ノ消^却ヲ行
 フニ拘^ハラズ其價格反^テ百^ニ付^二十六^ノ下^落ヲ來
 ス者ハ職^トシ^テ此^レ之^ニ由^ル
 余輩條^ヲ逐^テ大隈^閣ノ説^ヲ辨^論シ以^テ其第^四條ニ
 至^ル之^ヲ論^スルニ當^リ多^少已^ニ世人ノ耳目ニ存^ス
 ル所ノ事項^ヲ此^ニ覆^載セザルヲ得^ズ関稅局ノ刊行
 セル千八百八十年六月三十日決算ノ外國貿易歲計
 ヲ按^スルニ其要^左ノ如^シ

輸入品	一二三、一五六、三二七四
輸出品	一〇六、八六三、四八二四
輸入ノ超過	一六、二九二、八五五 ^四
十二月三十一日迄半歳ノ間輸出入品總額	

輸入品

一八、一五三、四四四

輸出品

一六、八九八、九四七

輸入ノ超過

一、二五四、四九七

差引輸入超過

一七、五四七、三五二

差引超過金額中七千万弗以上七千万弗以内ノ

貨物猶ホ外國商人ノ手ニ在テ未夕消費セズ

右同期内ニ在ケル貨幣輸出入統計左ノ如シ

輸出品

四三、五五四、六五四

輸入品

一七、七五〇、五七〇

輸出ノ超過

二五、八〇四、〇八〇

十二月三十一日迄半歳ノ統計

輸出品

四、七二九、三〇六

輸入品

二八一、九二七

輸出ノ超過

四、四四七、三七九

差引輸出ノ超過

三〇、二五一、四六三

毎歳輸入品ノ超過高平均

三、六七七、一八二

毎歳正貨輸出ノ超過高平均

六、七二二、五四八

蓋シ貨物輸出入ノ額ヲ對比スルハ則チ毎歳ノ平

均ニ於テ三百六拾七万七千八百八拾貳圓輸入超過ヲ

出スト至氏此超過ニ当ルノ額ハ外國人ノ日本ニ居

住スル者其居住ノ費用、内國雇人ノ給料、食品、家屋、関

稅等ノ為メニ仕拂フノ額ニ對シ是等ハ皆ナ高品貨

物ヲ以テ之ヲ代辦ス故ニ此諸、雜費ヲ拂々又七億貳

千三百七拾六万四價ノ日本貨物ヲ買收セシニハ外

人ハ其手許ニ在テ未夕賣售セサル所ノ貨物ヲ悉皆

賣却シ以テ七億四千百三拾万四價ニ当ルノ貨物ヲ

以テセサルヘカラス故ニ前述セル統計期內ニ於テ
外人ヨリ輸入スルモノ多シト云レ日本ハ未タ嘗テ
錢貨ヲ以テ其價值ニ答ヘズ若シ此ヲ以テ日本商民
ノ少シク識知アル者ニ質セハ其人必ス我ヨリ錢貨
ヲ以テ外國輸入ノ品ニ答フルヲナモヲ証シ且ツ為
メニ言ハントス外國貿易ハ衆人ヲ富マスノ良品ニ
シテ利路常ニ我ニ在リ其日本ニ益アル少ナラズ
唯ダ政府幣ヲ以テ貿易上必須ノ正貨ヲ買收シ商
業ノ資本ヲ占奪シテ之ヲ外洋ニ輸レ以テ外債ノ賦
金及ヒ其必ス正貨ヲ要スル費用ニ充テ而メ其留ム
ル所ノ紙幣ハ今日ニ至テ復タ償却スルヲ能ハス是
レ外國貿易ノ道阻塞シテ盛栄ヲ致サル所以ノ本
因ナリト

輸出正債三千〇貳拾五万四ノ内訳左ノ如シ
千八百七十六七十七年ヨリ千八百八十八十一年迄五年間外債
償還ノ賦金 九〇七五、六八三四
諸公費歳額三百五拾万四五年分 一七、五〇〇、〇〇〇
ソル、イ、ジ、エ、リ、ド、氏、甲、錢、艦、ノ、價、直 三、〇〇〇、〇〇〇
千八百七十六年七月一日ヨリ千八百八十年十二月
三十一日迄政府カ外國ヘ仕拂タル正債ノ総額 二九、五七五、六八三四
此ノ金額ヲレテ果シテ錯誤アラシメハ則チ可ナリ
否ラガレハ則チ余輩ハ大隈閣下ノ言ノ謬ナルヲ信シ
テ已ムヲ能ハス何ヲ以テ之ヲ言フ試ニ大隈閣下第
四條ノ言ヲ見ヨ六月間出額ノ超過スル平均一日三
万弗ナリ云々之ヲ百五十日ニ均フスレハ四百五拾

万弗トス関稅局計表ノ載スル所輸入品ノ超過僅ニ
百貳拾五万弗ナリ千八百八十年十二月三十一日迄
六月間商務局豫算貿易表ヲ按スルニ輸入品八百貳
拾六万五千百拾四弗輸出品九百七拾五万千三百〇
貳弗ナリ外國人ノ手ニ在テ尚ホ消售セザルモノニ
至テハ余輩之ヲ精算スルニ由ナレト虽モ千貳百万
弗ヨリ千五百万弗迄ノ間ニ在ルベシ
此等事實ト金額ノ相違ハ必ス大隈閣下ノ傾意考究
ヲ容ルニ足ルベキヲ以テ姑ク之ヲ舍キ以テ其校量
考定スル所ニ任スベシ大隈閣下ハ外國貿易及ヒ其
紙幣ノ下落ヲ致スノ故ヲ説クニ當リ確實ノ証憑ヲ
挾テ声援トナサス後ニ漫言スルノミ然レモ人若シ
或ハ鑿々徵スベキノ証ヲ援テ其説ヲ保庇セバ余輩

ハ亦タ將サニ壓クマデ大隈岩倉兩閣下ノ説ニ抗シ
テ言ハントス外國貿易ニ於テハ必スレモ正貨ヲ以
テ相ヒ應答スルヲ要スベキ事項ナク紙幣ノ下落ハ
全ク外國貿易ト相ヒ涉ラザル原由アレバナリト
之ヲ要スルニ政府ハ其能ク紙幣ヲ以テ正貨ヲ港市
ニ買フヲ得ルノ由ニ當テハ專ラ此法ヲ以テ海外
ノ費用ニ供シ其能ク米穀ヲ歐洲ニ輸送シテ正貨ト
交換スルヲ得ルノ由ニ於テ則チ亦タ此法ヲ用テ外
債ノ償還ニ充テ務メテ府庫ニ藏スル正貨ヲ散セサ
ラントテ謀リ千八百六十六年ノ條約及ヒ関稅規程
ニ背キ此等及ヒ絹茶ノ高事ニ添指シテ不公ノ利ヲ
漁シ姑息弥縫ノ策ヲ施シ終ニ吾人カ預メトスル令
日ノ慘狀ヲ來マリ府庫既ニ空シク畫餅ノ錢債獨リ

留テ世間ニ流播シ國民狐疑懼心ヲ生シ紙幣ノ信用
全ク地ニ墮ルニ至リ言責官守ヲ負フ者荷擔ヲ他人
ノ肩ニ遷シ自ラ其罪責ヲ免カレント欲スルハ勢ノ
必ス然ル所ナリ是ニ於テヤ咎ヲ外國貿易ニ皈シ百
計ニテ罪状シテ以テ我罪ヲ掩ハントス其言ノ実據
ナキハ既ニ之ヲ論スルカ如ク昭々蔭蔽スベカラズ